

視察調査・研修会等報告書

令和 5 年 7 月 25 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎佳之 様

議員氏名(渡辺一男)



研修・視察日時	令和 5 年 7 月 12 日
研修会場・視察先	秋田県 大仙市
研修名・視察目的	新規就農者の支援および農業後継者対策について
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	農林部農業振興課長 杉山 真矢 主幹 高橋 正人 農業振興情報センター長 谷口 藤美
参加議員(同行者)	小林 英恵 橋本 亨行 細野 大樹
調査概要	別紙による
市政の課題等に対し どのように参考になるか 所感等	小山市の新規就農対策は国の補助制度利用で、かつ取組はJFAおやまを中心としているが大仙市は独自の施設を有し、助成についても国・県・市の制度があり、今後小山市の参考となる。スマート農業について、昨年からの取組んでいるが、民間(農機メーカー)との協定はそれぞれの能力を活用できて有効である。

視察調査・研修会等報告書

◎調査概要

一、農業振興情報センターの設置：平成10年4月1日開設

- (1)目的 ①栽培試験及び就農者への栽培技術等の普及指導 ②気象情報その他営農情報の受発信 ③新規作物等の栽培展示(花卉等含) ④営農技術研修及び技術相談 ⑤新規就農者及び農業後継者の育成 ⑥農地の利用調整等営農支援
※特に新規就農者及び農業後継者の育成が中心

(2)指導員及び相談員

元県普及指導員を会計年度職員として採用
週3日勤務 21万/月 他 通勤手当と期末手当、各種保険加入

(3)新規就農研修補助金等

国：農業次世代人材投資事業(準備型) 150万
秋田県：地域で暮る農業技術研修奨励金 90万
※平成28年度から大仙市外からも研修生を受け入れ
その場合住所地の自治体から一人あたり年48万
の負担金必要。

二、スマート農業に

令和4年12月 大仙市(株)クボタ(株)秋田クボタの
3者がスマート農業等に関する連携協定締結

◎連携協定項目

- (1) スマート農業技術の普及拡大
- (2) 次代の農業を担う人材の育成・確保
- (3) 農産物の商付加価値化

視察調査・研修会等報告書

令和 5 年 7 月 25 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 孫崎佳之 様

議員氏名(渡辺 一男)



研修・視察日時	令和 5 年 7 月 18 日
研修会場・視察先	岩手県 北上市
研修名・視察目的	企業誘致について
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	商工部企業立地課 課長補佐 奥山 大輔
参加議員(同行者)	小林 英恵、橋本 守行、細野 大樹
調査概要	別紙による
市政の課題等に対し どのように参考になるか 所感等	小山市は昭和30年代から工業団地の開発企業 誘致に取組み、12ヶ所の工業団地を造成し 製造品出荷額 9,110億円(R2)を誇る。 また北関東トップクラスの企業立地優遇制度等 あるが、分譲価格や高速交通体制に おいて北上市を参考にすべきである。

視察調査・研修会等報告書

調査概要

北上市は国道4号とJR東北本線の南北幹線と国道107号とJR北上線の東西幹線が交差。さらに東北縦貫横断道、東北新幹線などの高速交通体系も整備され、北東北の十字路として、交通の要衝として発展。昭和初期に「工場誘致構想」があり昭和14年に黒沢尻工業高校を誘致し昭和29年企業誘致のため1町6ヶ村合併し「北上市」誕生し工業団地整備、企業集積加速。平成00年に旧北上市、江釣子村、和賀町が合併し現在の北上市となる。

(1) 北上市の工業団地数・面積・企業数、製造品出荷額
工業団地 8ヶ所、産業業務団地 1ヶ所、流通基地 1ヶ所
総面積 211 ha (内、分譲用地面積 551 ha) 並地企業 296社
製造品出荷額 607億円 (R2)

(2) 工業団地の販売価格

2,500円 ~ 27,225円/m²

(3) 企業誘致優遇政策

① 北上市企業並地促進補助金

1億円 (限度額 総投資額の10分の1)

※ 製造業等、経費投資額1億円以上、新規常用雇用者数10人以上

② 企業設備投資奨励補助金

新・増設、移転にかかる固定資産税相当額(0年間)

※ 製造業等、総投資額4千万以上等

視察調査・研修会等報告書

令和 5 年 7 月 25 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 篠崎 佳之 様

議員氏名 (渡辺 一男)



研修・視察日時	令和 5 年 7 月 14 日
研修会場・視察先	秋田県 能代市
研修名・視察目的	学力向上の取り組みについて
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	能代市教育委員会 学校教育課 課長 安部 芳幸 " " 参事 三洲 龍太
参加議員(同行者)	小林 英恵 橋本 守行 細野 大樹
調査概要	別紙による
市政の課題等に対し どのように参考になるか 所感等	「秋田の探案型授業」でやらせる授業では なく、自分たちがつくる授業を実施したり 就学前教育と小学校教育との円滑な 接続への取り組みのための幼児教育・保育 アドバイザーの配置が参考になる。

視察調査・研修会等報告書

調査概要

学校教育の重点

1. 主体的で創意ある教育活動の推進

(1) カリキュラム・マネジメントの視点を基に、ふるさと教育・キャリア教育の趣旨を生かした教育活動の推進

(2) 地域と学校が一体となる学校運営協議会（コミュニティスクール）制度の構築

2. 心豊かな人間性と健やかな体を育む教育の推進

(1) 自己実現を支える生徒指導

(2) 心豊かな心と健やかな体の育成

3. 基礎学力の向上を図る学習指導

(1) 「秋田の探求型授業」を基軸とした授業づくり

4. 幅広い識見と実践的指導力を培う教職員の研修

(1) 学校を活性化させるための校内研修

(2) 今日的な教育課題に対応する市教委研修

5. 安全・安心な学校教育の充実と環境の整備

(1) 学校安全に関する指導の推進と学校施設の適切な維持管理

R5 能代市の特色ある取組

1. カリキュラム・マネジメント3ヶ年計画

学校経営目標達成に向けて、全教職員が学校経営に参画意識をもって、児童生徒の資質・能力を育成

2. 自立に向けた系統的な特別支援教育

就学前 → 小学校 → 中学校 → 自立

3. 教育・保育の推進体制の充実を図るための幼児教育・保育アドバイザーの配置

視察調査・研修会等報告書

令和 5 年 10 月 16 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長

篠崎佳之 様



議員氏名(渡辺一男)

研修・視察日時	令和 5 年 10 月 12 日 ~ 13 日
研修会場・視察先	青森県 八戸市公会堂・公会堂文化ホール
研修名・視察目的	第85回全国都市問題会議
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	
参加議員(同行者)	篠崎 経之 小林 英恵 橋本 守行 高橋 栄 細野 八樹
調査概要	※議題 文化芸術・スポーツが生み出す都市の 魅力と発展。 細部別紙
市政の課題等に対し どのように参考になるか 所感等	文化芸術・スポーツは市民の生活に豊かさや 潤いをもたらすと同時に人々の間に「絆」 を生み出し、それが都市の「ぎわい」や、 アメニティを醸し出し、やがては都市の顔 形作るという理念を、今後のまちづくり 反映すべきである。

視察調査・研修会等報告書

※基調講演(アートの役割って何だろう?) : 東京芸術大学長 日比野克彦
1つ目の提え方: アートとは「生きる力」

アートに欠かすべからぬのがイメージする力、すなわち想像力である。

2つ目の提え方: アートとは「多様性ある社会を築く基盤」
現代社会において、多様性の価値観への眼差しが次世代の大きなテーマとなっている。

3つ目の提え方: アートは「社会的な課題に対して持続的に
取り組み続けていくには大切なものである」

人の心と動きを動かすことはアートの機能、役割、特性である。

※主報告(八戸市の文化・スポーツによるまちづくり): 八戸市長 熊谷雄一

(1) 文化によるまちづくり

八戸市には、八戸三社大祭に彩りを添える「蛸霊神楽などの
伝統芸能があり、2006年「タタ文化都市八戸推進会議」を立ち上げ、
振興策を検討、1990年代以降、廃棄利用資産となった商業
施設を2011年新たな交流と創造の拠点として、八戸ポータル
ミュージアムはっちとして(開館)地域資源の魅力を創出発信
した。

(2) スポーツによるまちづくり

冬季は市内各所の野水池は天然のリンクになったことから
スケートが盛んで八戸の風土が育んだ文化といえる。

2019年、長根リンクの老朽化により「八戸市長根屋内スケート場
Y&Aリーフ八戸」をオープン、スポーツツーリズムの推進。

※一般報告(まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から
育まれる) : 文化事業ディレクター 吉川由美

◎ まちのリノベーションと「はっち」の誕生

はっちは、観光、地域資源、ものづくり、食文化、祭りと芸能、
風俗、自然、子育て、市民活動、シアター、スタジオ、アーティストイン
レジデンス、コミュニティFMなど多様な情報のショーケースで
ありつつ市民を主体とするさまざまな活動の拠点である。

※一般報告(標高差1500mの地勢を活かしてスポーツ・ツーリズムの創出) : 長野県東御市長 花園利天
市の中央を千曲川が東西に流れ、その右岸から浅間山系にかけて標高差が1500mにも及ぶ南面傾斜の扇状地が広がり、左岸には標高600m~850mの2つの台地、千曲川および千曲川に沿った河岸段丘、変化に富んだ地形、日当りは良いが平地がほとんどないのがまちの欠点と捉えて、地域固有の価値を創出し最大限に活かした。
国内最高地点の全天候型400mトラックが平成29年に完成、令和元年には高地トレーニングができる国内唯一の屋内プール「GMOアスリートパーク湯の丸屋内プール」が完成、この市がつくった施設が競泳ニッポンの強地拠点となり「東御から世界へ」は地元のためならず、これからの競泳ニッポンの合言葉になっている。

※一般報告(まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用)
鹿島アントラーズFC 鈴木香樹
アントラーズが本拠をおく地域はかつてのどかな農漁村、高度成長期の1960年代、鹿島臨海工業地帯の開港で様相が変わった、大規模な鉄鋼業、石油化学工業などの工場群、火力発電所が立ち並び工業のまちとなり雇用が生まれるが、娯楽施設がなく若者の首都圏流出が発生したり、旧住民と新住民をいかに融和させるか課題も生まれた。

そのため鹿島町、神栖町、波崎町(当時)が有識者とともに「楽しい街づくり懇談会」を立ち上げ、魅力あるまちとするための議論を重ねた。そうして中、日本サッカー協会に「リーグ」構想が目にとまり「サッカーによるまちづくり」に舵を切って現在に至っている。

※ パネルディスカッション

(一) «文化芸術を活用まちづくり～自治体文化行政から魅力的なまちへ»

・コーディネーター：東京大学大学院人文社会系研究科教授 小林真理

① パネリスト：合同会社 Imajimus 代表取締役 今川和佳子

2008年から6年間に、八戸ポータルミュージアムはつち初代コーディネーターとして文化芸術事業を担当した経過等について意見発表。

② パネリスト：拓殖大学商学部教授 松橋崇史

地域活性化におけるスポーツの役割とその変化について題して全国各地のスポーツと自治体の連携について紹介。

③ パネリスト：静岡県沼津市長 頼重秀一

沼津市において「フェンシング」のまち沼津」のブランド形成やサイクリングを通じた観光誘客、サッカーをはじめとした地元プロスポーツクラブの支援等、スポーツを通じたまちのいきわいづくりに取り組んだ事について意見発表。

④ パネリスト：京都府綾部市長 山崎善也

市は市民一人一人文化・スポーツの推進により文化のかおるまちづくりを目指すとともにスポーツの振興によりスポーツの力で人とまちの活性化と都市との交流を促している事について意見発表。